

# 平成25年度 村上市小教研体育部 活動報告

部長 岩佐 武博

## 1 研修テーマ 『 学習指導要領が求める体育授業のあり方を探る 』

## 2 活動の概要

- 期 日： 平成25年 10月25日(金)
- 単元名： ハンドボール（5年男子7名・女子5名、6年男子7名・女子4名）
- 授業者： 村上市立神納東小学校 教諭 小野 浩由
- 指導者： 村上市立村上南小学校 校長 佐藤 強平 様



## 3 研究の実際

### (1) 本時のねらい

- ハンドボールの第1局面「ボールを相手陣地に運ぶ」ために、ボールを持たない時の動きを工夫した練習や戦術を考える活動や、実践する活動を通して、パス・キャッチ・オープンスペースへの走り込みができる技術を身に付けることができる。

### (2) 展 開

- 本時は、前時の練習や試合の様子を動画で確認し、その後、本時のめあてをチームごとに立て練習や試合を行う、学習者（児童）中心の探求学習を行った。
- 前時の反省から練習方法をチームで相談し、練習したことを生かしながら試合を行った。終末では、チームごとに振り返る時間を設定し次時につなげた。
- 本時のねらい達成のための工夫
  - ・場（コート）
  - ・ルール
  - ・学習形態
  - ・用具
  - ・学習カード
  - ・資料提示

### (3) 協議会

- 協議の視点1： 学習内容に対し、学習形態を「ステップ1」（授業者中心の課題学習）と「ステップ2」（学習者中心の探求学習）にしたことは、既習学習を活用して、児童の思考力を高め、個々の技術向上につながったか。
- 協議の視点2： 場やルールを工夫したことは、児童の思考・判断力を高めることにつながったか。

- ・多くの児童が、学習の流れを理解し、自分たちで考えながら、主体的に練習や試合を行っていた。
- ・場やルール、資料提示、教材用具等、とても工夫されており、体育が苦手な児童も自らボールを追いかけて活発に運動していた。
- ・ステップ2の学習活動においても、必要に応じて教師が指導したり声がけしたりする必要がある。

## 4 成果と課題

運動をする子とそうでない子の二極化が進んでいる昨今、教師は運動好きな子どもを育てる体育学習を行わなければいけない。「楽しさの体験」「学びの創造」「技術の習得」、授業作りの3視点が意識された授業であり、そのため、一人一人の子どもたちが生き生きと運動に親しむ姿が随所に見られた。

教師の出場、言語活動の充実、評価方法等が今後の課題である。